

「南山城村」を訪ねてください

南山城自然村の会（南山城村共同活動地の会）

会長 谷村寛昭

「南山城自然村の会」は2019年4月に「日本森林ボランティア協会」の共同活動地の一端を担い活動しています。本会は、京都府の南端南山城村大河原地区を拠点として、荒廃した杉檜の植林山と竹林の間伐整備を月2回と定めて行っています。地勢は村の中央部を滔々として木津川が流れ、北は突兀500mの高原、南はなだらかな丘陵。山麓にへばりつく様に集落があり、後醍醐天皇由縁の戀志谷神社や十一面観音磨崖仏などの古跡、木津川の流中には岩松聳える殿様岩、夢絃峡、明神の滝の勝地あり。車塵なく人影希な山村ですからIさんは車窓（JR関西線）に映る「山川の風景を愉しみながら」来村されています。



活動地・御神木



活動地・間伐後

作業は神木直下に全員佇立し一礼拍手をうち「安全の言葉」を心念してから始めます。樹齢70年を超えて林立する杉檜。どの木を生かしどの木を犠牲にする歟、風霜を経て生きてきた樹の生命を思えば安易な伐倒は許されません。「木にも生命あるを思い惜しむべし」の箴言ある所以です。伐倒木の処置は京都府が推進している切り捨て間伐ではありません。寸法を揃えて切断、土砂止めの堰として一定の高さに積み重ねます。景観も大事であることを不言の裡に実践するのです。安全第一、景観重視、乱伐厳禁を徹底しているものの、各会員の活動目的は様々。「木を伐るのが好きだから」「村の自然がいい」等、各人の趣意を曲げてまで強請するような目的を会規約に鈴記しているわけではありません。惟、個人的見解を述べれば、現行の活動地を全村7地区に拡大したいとの思いは常にあってこの非望の

念を達するためには会員拡大は必須です。

会発足（平成25年）後既に10年が過ぎ、その間参加者3人という苦しい時期のあったことを追懐すれば、現状の会員数17人は決して悲観すべきことではありません。併し「いま少し会員が増えたら」と思うのは人情であり活動地の波及を一考するほどに思い至ったのが自然農山園の活用です。自称「自然農山園」には梅やベリーなど23種600本余の果樹があり、50年来育成してきました。販売が目的ではありません。都会のこどもたちを山園に招いて四季折々の果実の採取を通して南山城村の自然に愛着をもってもらいたい思いでこれまで奈良市のこどもたち40人を招いたり様々やってきましたが心事齟齬いづれも一過性のイベントに過ぎず苦心している際、「こどもにもしものことがあったら責任を問われますよ」の指摘があり思いを断念。毎歳枝折れるかと疑うほどに実をつけていた梅李はいま幹に苔を生じ、それでも礼分を守りて果をつけながら人の掌中に入ることなく地に落ちる光景を空しく眺める而已。是果樹を会員獲得のために生かそうと思うのです。



シイタケ・植菌



名勝・殿様岩



自然農産園
ブルベリー紅葉

鶯喉未だ滑らかならざる早春、溪梅潔白の英を誇り、李花山椒後れて清香を放ち、やがて一雨ある毎草木若葉を出し、梅の実肥えて朱を帯び、ビワ肌膚の如く潤美、本格的梅雨期に入れば藍莓熟し緑風過ぐれば纖梢危き程に鈴なり。茸々たる夏草との格闘、鎌を揮うの手を休めて一顆を口に入れば喉の渴きを忘れます。梅雨明ければ即ち樹蟬炎天を煽り、日暮溪間に響くひぐらしの音に幽寂を覚ゆる晩夏。溪田の稲穂垂れ、9月稲刈りの時節、湊流に枕むアケビ、ムベ秋色破瓜し、柿栗榲実ります。歳晩に至ればユズ、八朔黄金の輝きを競い、支柱に絡む奇異果は朔風に揺らりて風致あります。

該山園に都会に住む親子を招き（オーナー制）好きな果樹を発見専有すれば自ずと愛着

がわき、英^{はな}咲き実をつくまでの季節の移ろいを観察するほどに五風十雨の有難さ、自然を守ることの大切さを自得するでしょう。併^{あわ}せて彼らを本会の活動地に案内し整然^{せいぜん}、甦^{よみがえ}った山の光景を眼前にすれば有感^{かんあり}、共働を申し出てくれるかも知れません。

貴会諸氏、忙中閑を偷^{ぬす}んで山園を訪ねて下さい。而^{しか}して自然農山園の活用について提言していただければと思います。不文寄稿する所以^{ゆえん}です。